**「忍耐」   2016年9月11日**

**申命記7:21-22 E. Carl Zimmermann牧師**

1986年1月28日、スペースシャトルチャレンジャーは打ち上げ後わずか73秒で爆発し、７名の搭乗員は一瞬にして亡くなった。

世界中の何百万人もの人が、その恐ろしいシーンを見ることになった。

事故の主な原因はオーリングが、当日朝のフロリダの寒い気温に耐えられなかったためだとされた。

オーリングの設計者も、また製造メーカー、モートン－サイオコール社もＮＡＳＡに対してその可能性を警告したが、すでに打ち上げが遅延されていたため、チャレンジャーを発射させるように強い要請があった。

事故が起こった後、いくつかの委員会は、いったい何が悪かったのか、より理解しやすい原因をさらにつきとめていった。 一連の問題が明確になっていくなかで、一人の捜査官はＮＡＳＡの「せっかち」がもっとも大きな問題であるとした。

さて、本日から「人生の移行期」に焦点をおいたメッセージのシリーズをはじめる。　今日から数週間の説教は、教会全体で行う聖書の学びに関連した内容で、できるだけ多くの方が、聖書の学びにも参加して欲しいと思う。 パスターヒトシも私も、日曜朝にわかちあうメッセージが、なんらかの形で、聖書の学びに貢献して欲しいと願っている。

時々、わたちたちが、一つの生活環境から、異なる生活環境に移行していくとき、とかくせっかちに物事を決断して、後に後悔するような結果になってしまうことがある。

以前に聞かれた方もいるかもしれないが、もし配偶者を亡くしたような時には、すくなくとも一年は大きな決断をしないほうが良いと言われている。

家は売らない、仕事は辞めない、引越しはしない。。。何かする前に、時間をかけて、配偶者が亡くなった事を受け止め、悲しみと向き合うように。

もし、神が我々に新しいことに挑戦したり、新たな責任を負うような方向へと導いているとするなら、それに成功するかどうかは、私たちが成熟しているか、また、抑制することができるかどうかにかかっている。

ヤコブ5章7-11節では、（日本語リビングバイブル）「ですから、愛する皆さん。 主が再び来られる時まで、忍耐していなさい。 貴重な 秋の収穫を期待する、農夫の忍耐に学びなさい。 勇気を出しなさい。 主は、もうすぐ 帰って来られるのですから。 皆さん。 互いにぶつぶつ文句を言ってはいけません。 自分だけは、人から非難され ない自信でもあるのですか。 見なさい。 偉大な裁判官である主が、すぐそこまで来て おられます。 だから、非難は主にお任せしなさい。 どんな苦難の中でもじっと忍耐した、主の預言者を見ならいなさい。 彼らは、 地上で非常な苦しみに会いましたが、最後まで忠実に主に従いました。 それで今、天国 で幸福に満ちあふれているのです。 ヨブは、悲しみの中で主を信じ続けた模範です。 私 たちは、ヨブの生き方から、主のご計画の結末には必ず祝福が伴うことを知ったのです。 主は、恵みとあわれみにあふれたお方だからです。」

ここで、ヤコブはイエスの再来を待ち望む人々に対して話している。わたしたちは、彼等がイエスの再来を待ちきれずにいた理由は想像がつく。

しかし、そもそも、われわれのだれもが、なにかを待ち望んでいて、一日に一つずつ進めればそれで良しとすることは、言うのは簡単だが、現実にそのように行動することが難しい。

12月半ばには、子供たちはクリスマスの朝を待ちきれずにいる。　8月は、親たちは学校がはじまるのを待ちきれずにいる。。。結婚式、休暇、新しい仕事に就くこと等々、さまざまなことに待ちきれずにいる。

多かれ少なかれ、わたしはアメリカ人は、腰をおちつけて、流れに身を任せることが苦手な人が多いのだと思っている。

ウェイクフィールド研究所によれば、80パーセントの人々が、自ら自分は忍耐強いと思っているが、実際はそうでもなさそうだ。何と50パーセント以上の人が、電話で一分以上待たされるものなら、一分以内に電話を切ってしまうらしい。72パーセントの人はエレベータに乗ったときに、すでに光っているボタンを押し続けている。

また77パーセントの人は、信号が青になったあと二秒以内に、前の車が動き出さないなら警笛をならすようだ。

もちろん人々はスケジュールがつまっていて、約束の時間に間に合うために行動しているのはわかる。

しかし、仮にロサンゼルスからニューヨークに向かって運転していることを考えてみたらどうだろう。

それは2792マイルの行程だ。たいてい、私たちは、できる限り早く目的地に着きたいと思うものだが、我慢して、気の長い旅をしてみたらどうだろうか？

フリーウェーを降りて、アリゾナ州オラクルにある人口生態系生物園に寄ってみたり、オクラホマ州カツーサにある24メーターもある青いくじらの彫刻を見てはどうだろうか？

ヒューストン郊外のビールの缶で囲まれた家を見てはどうだろうか？　あるいは、テキサス州マックリーンにある、人気のハーブの博物館はどうだろう？

裏庭にあることでもそれを見ていないということは、わたしたちが十分我慢できずにいることをあらわしているのではないだろうか？　モーセは民を束縛状態から約束の地へできるかぎり早く着けるようにと願った。　しかしご存知のように、荒れ野で40年間もかかって目的地に着いた。人々が我慢ができなかったことは、モーセにその対応を迫ることになった。　人々はモーセがほとんど食べ物も水もない不毛の地に導いてきたことに不平を言った。そして、もちろん、彼等は外国の軍隊にも対抗しなければならなかった。

そのようなことは途方も無い大事業であったが、申命記に書かれていた言葉をぜひ、聴いて欲しい。　そして、これらの言葉は、最初の聖書の学びの言葉の一部である。決してそれらの国々を恐れてはならない。　なぜなら、あなたの神である主があなたがたの間に居てくださり、彼は偉大であり畏敬の念に満ちた神なのだ。

そして次の言葉をよく聴いて欲しい：　あなたの神、主は、それらの国々を少しずつ、追い払うであろう。

あなた方は決して彼等をすぐに追い払うことはできない、しかし、あなたの神、主が、あなたの前に現れたものに対抗して、あなたがたが自分の力では対抗しきれないのだ。

私たちは、短期的な満足、つまり、何かを欲しいと思ったら、それをすぐに得られるのが当たり前のような世の中に生きている。

前総理のマーガレットサッチャー氏は、「私は非常に忍耐強い、最後に私の道に行き着く限りは」と述べていた。

忍耐強く待ち続ける、支払いをきちんきちんとする、なにかを少しずつやり続けるということは、なかなか容易なことではない。しかし、われわれの人生で経験する移行期というものは、事態をよく受け入れ、ゆっくり、そして目的をしっかり持って進む時に、成功し満足したものになる。

最近、わたしたちはオリンピックを見たわけだが、わが国のもっとも多くのメダルを獲得しているマイケルフェルプスに注目が集まっていた。彼のオリンピックでの成績は、わずか15歳だった、オーストラリアのシドニーオリンピックから始った。その時はいくつメダルをとれたかご存知だろうか？一つも取れなかった！

彼はインタビューの中で、まったく勝てなかったことに対するがっかりした感情といらいらした感情の両方をあらわした。　しかし、そのあと、次のように言っている：コーチも家族も、前向きに我慢していれば、いずれうまくゆくようになるよ、と話してくれた。

なんと控えめな話だろうか！

たいへんな努力と、一歩ずつやりとげることで、マイケルフェロップは、少しずつ、オリンピックに参加する度に、勝てるようになっていった。

我々の生きる道で体験する大きな移行期においても、我慢、勇気、そして、楽観という健全な薬が、長い長い道のりを歩むことを可能にしてくれる。

この教会における移行期に待ち構えているものは、新しく牧師を招聘することだ。

みなさんが、そのプロセスを始めることに、どれだけ気になっているかはよく理解できる。　おそらく10月10日は、一人の牧師が決まっていて欲しいと願うことだろう。

しかし、それが難しいのだから、忍耐をもって、プロセスに従おう。　一歩一歩、それはしばしば、ほんの少しずつ、進むということ。

ときに、あまりにもゆっくりしか進んでいない、あるいは、全然進んでいないと思う時もあるだろう。

しかし、より忍耐強くあればあるほど、最後に牧師を招聘した時に、より大きな喜びを得るだろう。

詩編46編には、「静まって、わたしこそ神であることを知れ。」との言葉がある。

ある訳によれば、「忍耐せよ、そして、主にあって信頼せよ。」とある。

この言葉により、神が我々を導いているだけでなく、神がその速度をも司ってくださっていることを確認できる。

しばしば、ことは急に決まりすぎることもある、しかし、多くの場合はそうではない。

より多くの場合、事は少しずつやってくる。

だから、神がヘブライ人へ、すべては一度には起こらないということを言って励ましたように、私たちも忍耐づよい存在でありますように。

神のタイミングで事が進むようにし、神学者ヘンリーナウウェンが次のように語った言葉に、勇気づけられよう：

待つことができる人は、忍耐の人である。　忍耐とは、そこに積極的に留まろうとすることであり、熱心な信仰をもって、事態が、いままで見えもしなかったすばらしい何か、最上の状況が、わたしたちの前に展開していく中に生きることである。